

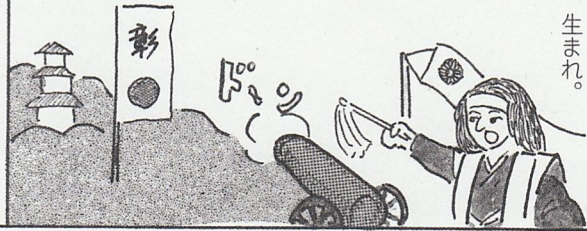
# まんが平塚の歴史 村井弦斎

文久三年（一八六四）生まれ。  
本名は寛（ゆたか）。  
父・清は、  
三河吉田藩（愛知県）  
の儒者。

時は、  
幕末・維新。  
四歳のとき、  
上野戦争の砲声を  
江戸藩邸で  
間近に聞く。

明治維新後、一家で上京。

これからの世は、  
学問第一じゃ  
村井家の将来を頼んだぞ。



弦斎は、期待に沿おうと猛勉強。  
明治七年（一八七三）には、  
十二歳で東京外国語学校  
（現・東京外国語大学）  
に入学。

しかし、  
こうした猛勉強がたたって、  
神経性の疾患となって、  
しばらく療養に努める。

二十歳のとき、  
心機一転、  
アメリカに外遊し、  
一年間滞在了した。

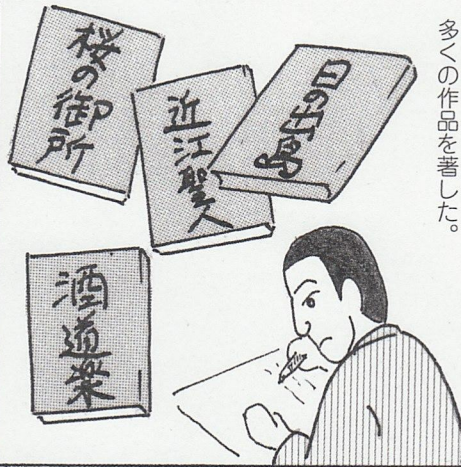
経済学を実地で  
研究してくるんだ。



帰国後、「報知新聞」の客員となり、  
著述家として活躍。

報知新聞

時事問題の記事ばかりでなく、  
小説も書き始め  
多くの作品を著した。



中でもヒットしたのが『食道楽』である。

一〇万部を売って、  
ベストセラーとなった。



この『食道楽』は、小説ではあるが、  
その中に、六〇〇以上の四季折々の  
料理や食材の話題があつて、  
食育の重要性も記されている。

子どもには、  
徳育よりも、  
知育よりも、  
体育よりも、  
まずは  
食育である。



明治三十七年（一九〇四）、  
『食道楽』の印税で、  
平塚駅の南側の広大な  
土地を購入し、屋敷を構える。

ここに、野菜畑、果樹園、  
草花園、温室、家畜小屋を作り  
『食道楽』を実践した。



晩年は、玄米食の研究に没頭し  
断食、自然食、  
竪穴住居生活などを実践し、  
奇人、変人扱いもされた。

酒道楽  
と

昭和二年（一九二七）  
死去。  
六十四歳。



今は、岩波文庫でも  
よめるよ。